

協会理事長よりご挨拶



当協会は、今年4月18日に任意団体設立からまる10年を迎えました。

協会立ち上げにご協力いただいた皆さま、これまで支えてくださいました会員の皆さまに対して、心より御礼申し上げます。

さて、今年4月から「インスペクション説明義務化」がスタートしました。ふたを開けてみればそれほどダイナミックな動きは見られません。理由はかんたんで、「宅建業者が積極的ではない」から。2006年に「耐震診断の有無とその内容」について、重要事項説明書に記載して説明することが義務付けられましたが、あの時も耐震診断や改修が促進されることはありませんでした。今回の法改正も、同様にとらえられているようです。

大多数の宅建業者にとっては、「また説明項目が増えた」「面倒くさい」というのが本音ではないでしょうか。とはいえ、インスペクションが一般的に周知されるのは確実にあり、常識化するのには時間の問題。あとは「インスペクションがどのように根付くか」といった質の問題です。

問題なのは、明らかに「宅建業者とインスペクターとの癒着」が起きているであろうと思われることです。仕事を出してくれる宅建業者に付度して、あるいは指示に従って、報告書を書き換えたりといったことは、早晩に社会問題化するでしょう。

当協会が標榜するホームインスペクション(住宅診断)は、あくまで客観性と第三者性を堅持したものです。日本人と不動産の関係にとって、あるべき姿を指し示す羅針盤のような存在でありたいと思います。JSHI公認ホームインスペクター資格試験に合格し、会員登録した認定会員は1,610人(2018年5月末現在)と、いつの間にか大所帯となりましたが、最終的に少なくとも4,000人程度、多くとも5,000人の登録を想定しています。

当協会を設立する際に参考とした、アメリカホームインスペクターズ協会(ASHI: American Society of Home Inspectors)とは本年度、情報交換などを目的とした緩やかな協定を締結する予定です。2019年1月にサンディエゴで行われるASHIの全国大会「インスペクションワールド」には、全米各地からインスペクターが集結します。ここに、私を含む理事数名が参加する予定です。米国でインスペクションが根付いたプロセスや最新動向を学び、会員の皆さまに還元してまいります。また、来年のJSHIの通常総会には、ASHIの幹部を招へいして、会員の皆さまへの情報提供や、懇親の場をご提供する予定です。どうぞお楽しみに。

特定非営利活動法人 日本ホームインスペクターズ協会
理事長 長嶋 修